

陸平通信

OKADAIRA

2013年12月1日発行

編集・発行/茨城県稲敷郡美浦村土浦2359

美浦村文化財センター（陸平研究所）

第Ⅱ期 77号

☎ 029-886-0291 FAX 029-886-0471

Eメール:bunkazai@vill.miho.lg.jp

おかだいら



ミスター縄文人



御茶園西遺跡（詳しくは次号で!!）



ミニ企画展の様子



ミズ縄文人

秋を楽しむ

ミニ企画展

「美浦に伝わる風土記の世界～常陸国風土記1300年記念～」開催中！

『常陸国風土記』やゆかりの地、同時代の遺物などを紹介した展示です。講演会やイベントのほかに、風土記ゆかりの地を訪れるウォークラリーもおこなっています。どうぞご来館下さい。

会期：11月12日（火）～12月22日（日）

会場：美浦村文化財センター ※休館日：月曜日

12/22まで！

<講演会>

日時：12月7日（土）午後2時～

演題：『「常陸国風土記」と

古代の信太郡』

講師：堀部猛氏

（上高津貝塚ふるさと歴史の広場）

<関連イベント>

「語りと音楽・舞踊でつづる信太物語～流海の陸より～」

日時 12月22日（日）午後2時～（開場：午後1時30分～）

会場 美浦村文化財センター ※入場無料

『ふるさと美浦の昔物語』（森野宙子作、美浦村史編纂委員会刊行）にある常陸国風土記をもとにした4つの物語を風土記の紹介とともに、語りや音楽・舞踊で表現する試みです。午後のひととき風土記の世界にひたってみませんか。どうぞお気軽にご来館下さい。

物語：「ヤマトタケルと雄栗村の泉」「琴と鼓がつなぐ恋」ほか

出演：柏木久美子、オカリナアートJOY（野口喜広、矢野恵子）、林敏秀・奥木愛子（旗野恵美創作舞踊研究所）



常陸国風土記

奈良時代にまとめられた地方誌②

美浦村は「信太」という地名が現在もあるように常陸国風土記の頃、奈良時代には常陸国十一郡のうちの信太郡に含まれていました。

風土記には信太郡についてどのようなことが記されているかみてみましょう。

最初に信太郡の位置の記述があります。「東は信太の流海、南は榎の浦の流海、西は毛野河、北は河内の郡なり」とあります。現在の行政区にあてはめるとその範囲は土浦市の一部、阿見町、美浦村、稲敷

市、牛久市の一部、龍ヶ崎市の一部、河内町になります。少し前までの稲敷郡がおおよそ該当しています。

信太郡の設置に関しては『釋日本紀』に引用された文から、白雉四(六五三)年に物部河内と物部会津等が惣領の高向大夫等に願ひ出て、筑波郡と茨城郡から七〇〇戸を割いて信太郡を設置した、とあります。今から一三六〇年前に信太郡ができたことがわかります。

続いて信太郡内の土地や場所の記述があります。名称の由来やその地に伝わる



和銅中十宅郡図

常陸国(風土記編さんの詔が出された頃・和銅年間)
『新編常陸国誌』(1976)より引用

話などを入れるながら記されています。残念ながら現在伝わる風土記には、所々に省略された文があります。以下は現在伝わっている内容です。

める水がなく、占いをする者に占わせ井戸を掘らせた。その井戸が今も雄栗の村に残っている。ここから西に高来の里がある。

古老がいうことには天地の初めの頃、天から降って来られた普都大神が荒ぶる神々を平定され、身につけていた武具の甲や戈、楯、剣、手にした玉などすべてを脱ぎ捨てて白雲に乗って天へ帰っていった、ということである。

土地の人々に伝わる話では葦原の鹿は山にいる鹿とはその味が違う。常陸と下総と二国で大量に獲えても絶え尽くすことはない。

高来の里の西に飯名の社がある。これは筑波山にいる飯名の神の末社である。

榎の浦の津には駅家が置かれていた。東海道の常陸国に入る入口である。ここで初めて常陸国に入ろうとする時には、まず口をすすぎ、手を洗い、東を向いて香島の大神に拝し、それから後に初めて常陸国に入ることができるといわれる。

古老がいうことには、倭武の天皇が海辺を巡行されたとき、浜辺にたくさんのお茶が乾かしてあった。これにちなんですその場所を能理波麻

の村と名づけた、と。

乗浜の里の東方に浮島の村がある。四方を海で囲まれていて島は山地と野原が入りまじっている。戸数は十五戸、田は七、八町ばかりで、住民は塩を焼いて生計をたてている。ここには九つの社があり、人々は言行ともにつつしんでいる。

(次号へつづく)

県指定文化財

毘沙門天立像

が展示されます

布佐地区にある県指定有形文化財の毘沙門天立像が、茨城県立歴史館で開催される特別展「常陸南北朝史―そして動乱の中世へ―」で展示されます。毘沙門天立像は普段拝観することができませんので、この機会にぜひ歴史館にてご覧ください。展示では毘沙門天立像の全体をみることもできます。

会期 平成25年2月8日(土) 3月21日(金)

場所 茨城県立歴史館

(水戸市緑町2-1-15)

お問い合わせは歴史館へ

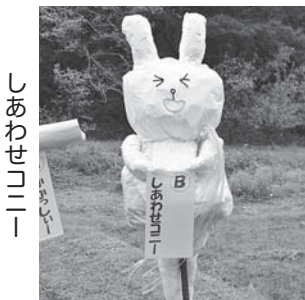
☎029-1225-4425



火起こし ↓



ヤッター！火がついた！



しあわせコニー



華風月



陸平音頭



弓矢



クリーンボランティア

さる10月6日(日)、陸平貝塚公園にて第16回陸平縄文ムラまつりが開催されました。おだやかな秋晴れの中、多くの人々が来場し、陸平貝塚公園は今年一番の賑わいをみせました。

ステージでは縄文太鼓、安中音頭、陸平音頭、おはやしが披露され、音楽コンサートには今注目の和風ユニット「華風月」が出演し、鈴華ゆう子さんの美しいハリのある歌声と神永大輔さんの尺八の音色が会場内に響き渡り、まつりを盛り上げてくれました。



オープニングの安中小縄文太鼓クラブ

来場者の投票によるコンテストはお馴染みのかかしコンテスト、縄文人仮装コンテストが加わりました。縄文人仮装コンテストは工夫を凝らした衣装や装飾で縄文人らしい装いを競い合いました。参加者の個性あふれる独創的な仮装に会場は大いに盛り上がり、皆笑顔に包まれました。会場内では美浦中学校生徒がクリーンボランティア活動を行ってくれました。まつり開催にあたり企業や団体はじめ多くの方々から協賛、ご協力をいただきました。皆さんありがとうございました。

【かかしコンテスト】

- 第1位 茨城なのになつーかよ！（虹の里）
第2位 しあわせコニー
（安中育成会：安藤菜都、鎌形菜緒、林萌香、山本来夢）
第3位 かかしー
（安中育成会：浅野瑞季、梅澤このみ、坂部友麻、殿岡舞、浅川聖羅、俵俊介）

【俚謡コンテスト】

- 第1位 縄文の森 大樹肅々 古代ロマンのファンタジー（飯塚美智子）
日和吟社賞 秋の実りは 未来につなぐ 美満の宝は 古代米（奥野智元）
中学生の部 もみじ色づき ヒラヒラ落ちて 赤い道路が できあがる（林すみれ）
小学生の部 友と歩いた かすみがうらは しずむゆう日が きれいだな（伊藤心）

【縄文人仮装コンテスト】

- Mr. 縄文人 高橋壽一 Ms. 縄文人 山本靖美
団体賞 陸平をヨイショする会 山がき隊（敬称略）

まつりでにぎわう陸平貝塚



茨城なのになつーかよ！



安中音頭



会場の様子



華風月



縄文クッキーづくり



おはやし



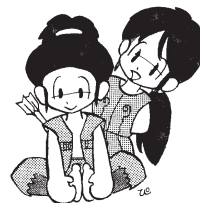
かかしー

❀❀ 文化財センター体験のごあんない ❀❀

開催場所は美浦村文化財センターです。(美浦村土浦2359)

申し込みは文化財センターまで ☎029-886-0291

※休館日 月曜日(月曜が祝日の時は火曜日も)、年末年始
みなさまのご参加をお待ちしております！



◆ 陸平の植物で草木染め ◆

桜でストールを染めてみよう。

日にち：1月30日(木)

時 間：9:30～16:00

体験料：1500円

持ち物：ゴム手袋、昼食、
あればバケツ

募集人数：先着10名



◆ 味噌を作ってみよう ◆

地産地消！地元の大豆で味噌作ってみませんか。熟成させて半年後に味噌を分けます。

日にち：2月14日(金)

時 間：9:00～16:30

体験料：1500円

募集人数：先着10名

持ち物：ゴム手袋、マスク、白米1合

講 師：美浦村食生活改善推進委員の皆さん

◆ さき織りでマイバッグを作ろう！ ◆

さき織りした生地を使ってバッグを作ります。

募集人数：先着8名 ※織りとバッグ作りと両方参加出来る方

体験料：1000円

内容：さき織り(2月)、・バッグ作り(3月14日(金))

※申込みの際に、裂き織りの日を予約。

※予約できる日は2月の火～金(2/11・14・27は除く)

で時間は9時～16時。

※さき織りの所要時間は半日～1日程度(個人差あり)

持ち物：昼食(さき織り、バッグ作り)

お持ちの方はミシン(バッグ作り)

講師：結の皆さん



◆ 古文書入門講座 ◆

古文書に親しんでみませんか。初めて古文書に触れる方を対象にした内容です。

日にち：2月2日、2月16日、3月2日(全3回)

時 間：10:00～12:00

体験料：無料

対象：美浦村在住または在勤者で
3回とも参加出来る方

募集人数：先着15名

持ち物：鉛筆

講師：平田満男先生(美浦村文化財保護審議委員)

◆ 第4回梅朝基礎落語 ◆

笑いのひとときをいかがですか。落語を聴いたり、落語に関する解説コーナーなどで楽しみましょう。

日にち：2月22日(土)

時間：13:30～15:30

講師：好文亭梅朝さん

木戸銭無料

事前申し込み不要

当日お越し下さい

